藤沢
# エコネット
藤沢環境運動市民連絡会議
（略称）藤沢エコネット

２０２１年３月１日
第３２２号

主な記事
- 『飯舘村からの挑戦』本紹介
- 藤沢駅南口駅前広場再整備
- 気候危機 あと４年 未来を守るのは今
- 浜辺から地球が見える！ ・村岡新駅問題

http://econet2015.sakura.ne.jp
事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳
☎／ＦＡＸ 0466－87－4922

## 10 年経過、原発災害中の今、二次災害への懸念

2011 年３月から 10 年、「原子力緊急事態宣言」は解除されず、廃炉の見通しも厳しい。福島県内の避難指示 11 市町村での解除後の 2021 年 1 月時点の居住率 27%で高齢者率が高い（東京新聞 2021/1/25）。

原発激甚災害は長期化する。その理由は、事故により放出され被災地に降下した膨大な放射性物質は、宅地、農地で一定程度除染されたが、圧倒的な面積を占める森林での除去は不可能であり、その汚染エリアに取り囲まれた地域での生活、生業はできないという被災住民の判断である。筆者の推計では汚染された森林土壌は 6200 万 $m^3$ で中間貯蔵施設の約 4 倍の汚染土壌が山に永久に放置されたままである。フレコンバックが消えても山に見えないフレコンバックが積まれている。

一方で、帰還者のためのライフライン等の公共施設整備やイノベーション構想による新産業のための整備等は復興事業として進められている。

震災前に居住していた人達は戻らず、新たな移住者による町おこしを始めようとするかのような復興事業の矛盾がある。人の復興ではなく、土地の復興ともいえる。従来型の自然災害からの復興のセオリー、場の復興が人の復興に連動するという考え方、一定の区画に居住する住民の生活と生業を守ること、再建することが自治体の責務であるという行政システムの限界がある。

筆者は発災直後に飯舘村の長期的復興策として「100 年２地域居住構想」を提案した。福島大学の今井照教授は「移動する村」と表現している。自治体は人の集合体であり、場所ではない。従来型の自然災害に対する復興施策と異なる原発災害特有の復興施策（法制度の見直し、新設も含めて）が求められる。

神戸震災の後、塩崎賢明教授は復興事業による孤独死を復興＜災害＞と表現した。原発災害の復興事業でもこの復興災害の心配、ふるさとコミュニティの分断による復興災害の他、汚染された樹皮を活用した発電所建設や、除染した汚染土壌による農地整備等の復興「核災害」の二次災害を招く復興事業が展開されようとしていることを指摘しておきたい。

糸長浩司（日本大学特任教授）

河津桜　引地川親水公園で 遠くに富士山が

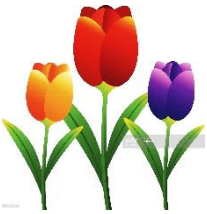
## 村岡新駅問題について

村岡新駅とまちづくりを考える会は村岡新駅設置反対署名を、本年１/１２に黒岩知事に 5.543 筆、鈴木市長に 5.442 筆を提出しました。それに対する藤沢市の回答は「（大船―藤沢の駅間距離の短さ、65.000 人超の利用見込みを満たせるのかとの指摘はあるが）サステイナブルな都市であり続ける為に必要な事業である。事業費の市負担が低減した（などからご理解賜るよう云々）」というものです。県の回答は知事でなく交通企画課長名での、A4 半分程度の素っ気ないものでした。これらは２／８の県市、JR の覚え書き（2032 年開業、駅舎総額 150 億円、JR15%県 30%藤沢市鎌倉市 27.5%41 億円ずつ負担）締結の後に送付されたのです。

また藤沢市は村岡駅と街造り素案のパブリックコメントを 1/19 まで募集しており、寄せられた市民意見には一定回答するとのことでしたが、いまだ回答されておらず、それなのに「覚え書き締結」が一方的に発表されました。これについて藤沢市都市整備課に「回答前の締結は約束違反じゃないか」と抗議した所、「パブコメは街造りに関するもので、村岡駅は昭和時代につくると決まったもので…」「昭和時代に決めた計画を、コロナ禍で見直しもせず強行するつもりなのか」とのやり取りをしました。市長は想定より費用が低減したから、などとも言っていますが、巨額であることには変わりなく、私たちはそんなカネがあるなら先ずコロナ対策に使えと要請しているのです。

また藤沢市長は先日「気候非常事態宣言」を出しました。駅や道路作りという大規模土木工事は二酸化炭素排出量も膨大です。市の気候非常事態宣言と村岡新駅設置という大土木工事の同時推進は矛盾しているのではないか。それこそ宣言をないがしろにするようなものです。

駅の完成は 11 年後です。沖縄県民は辺野古新基地建設反対に、何年にも渉って粘り強く取り組んでいます。沖縄県民の行動に学んで、私たちも反対運動を持続していきます。



（吉塚晴夫）

## 気候危機　あと４年　未来を守るのは今

1/23 学習会はリモートによる講演で講師の吉田明子さん(foe japan)は歯切れよく分かりやすくお話下さいました。

**なぜ　あと４年?**

産業革命以来、世界の平均気温はすでに 1℃以上上昇。気候危機による壊滅的な影響を回避するために必要な、1.5℃の気温上昇に抑えるためには、2030 年には温室効果ガスを半減させなければならない。そのためには世界全体で、**2020 年から 10 年間の場合、毎年 7.6%**の削減が必要であるが、**2025 年から 5 年間の場合、毎年 15.4%**の削減が必要となり、これはほぼ不可能と言われている。つまり、私たちに残された時間はあと４年ほどしかありません。

今なら間に合う！ ４年後に始めたのでは CO2 の削減が間に合わない！とても説得力がある内容でした。

2012 年以降、再生可能エネルギーは増えていて原発に頼ってはいない。石炭火力発電を進めるなど 2050 年も使うことは論外である。2030 年、2050 年に向けて大幅に再生エネ中心の社会へチェンジが必要。私たちにできること～～ **①地域で**　自治体の政策に注目！参加してみる　地域の仲間と活動してみる。**②　働きかけ**　国の政策に声を届ける。企業に消費者としての 声を届ける。 **③　個人で伝えることで「みんなのアクション」に。**買い物は投票！　電気、保険、食べ物などなど・・。

活動している山崎さんからはビデオメッセージがありました。残りの時間は質疑や補足説明と市長要望の回答を報告され、市議会陳情など「気候危機アクション藤沢」の活動経過報告もありました。リモート会議は初めてなので自己紹介をし、これからどう活動するかを話し合いました。

- 講座に参加して環境問題を考えるようになった
- 市民活動の中で横のつながりを持つことが大事
- 国内で 100%削減するのは難しいのではないか
- 洋上風力発電に関して
- 化石燃料からの水素輸入を進めているのは問題、など意見もありました。また要望や活動についてアンケートでは「学習会をしたい」とあり、電力切り替え、送電網のことなど出されました。「署名」も広めていく事を決めました。

（荒井）

## 『飯舘村からの挑戦ー自然との共生をめざして』

ちくま新書　（田尾陽一：著）

震災の年３月に楢葉に入り、そして６月から毎週飯舘村に通い詰め、昨年から住人となった田尾さんによる飯舘村の人々とふくしま再生の会の記録。

新書だけどレポートなどの一部は、本文より小さい文字でギュウ詰めで、見かけよりすごく中身の濃い一冊です。

再生の会は住民の方自身による放射線計測を支援し、記録や分析、発信や関連企業や専門家、行政につなぐこと、暮らしの再生に知恵を絞り方策を練ることなどを担ってきました。同時に農家の方々からたくさんの知恵をいただいてきました。

内容は会の記録に留まらず、学生さんや海外からの方々などそこに関わった方のレポートが、外からの視点を加えてくれるから、飯舘村の姿、位置、意味が立体的に見えてくる。

一方後半にある、５年目の報告会部分の 14 名の住民の方の発言はそれぞれ個別のかけがえのない５年のご苦労であり迷いであり、決意であり。ユンボを駆使して自力で屋敷林を除染し農業再開する方、他地区での肥育を苦労しながら絶やさずにやっと牛を連れて帰村した方、避難先に暮らしながら村内で新しい作物を作る方、再生の会の調査から安全を確認して村内の木でログハウスを建てた方、等々。

ご一読をお願いします。

**『福島第一原発と地域の未来の先に…**
**～わたしたちが育てていく未来～』**

吉川彰浩著　ユアサミズキ:イラスト・デザイン 自費出版、パンフレットのような体裁です。

吉川さんはあの事故の時、福島第２原発にいて、過酷な体験をした方。さらにご自身が浪江で暮らし、帰ることができなくなった被災者でもあります。事故後しばらくして退社し、原発収束事故を担う作業員支援をしていましたが、東電と被災地域の意思疎通、情報交換の滞りを見ていられずに双方をつなぐ活動にシフト。元東電社員という立場から疑いの目で見られたり、逆に東電に遠慮ない批判をして原発に出禁になったり。試行錯誤しながらたどり着いたのは、原発事故被災地域の未来をどうしたいか、それを共に考えようという地平。イラスト主体で、ハードルを低くして誰もが語れる原発問題にしたい、というのが趣旨です。

〈脱炭素都市ふじさわをめざして〉

原発をなくしてもなくさなくても、被災した地域がこれから数十年、廃炉と共に暮らすことに変わりはありません。その町の視点で考えてみませんか。

（杉山百合子）

## 藤沢駅南口駅前広場再整備基本計画素案

藤沢市議会 2/5、都心部再生公共施設再整備特別委員会で、藤沢駅南口駅前広場再整備の素案が質疑されました。

1. 先ず、都市整備部よりこれまでの経緯として、2017 年から 2 年で、学識経験者・市民・権利者・地元経済団体 ・鉄道/バスタクシー事業者等を含む 2 つの会議で計 12 回の検討、通行人アンケート、パブコメ、庁内検討をふまえ基本計画素案を作成してきたことが報告。
2. 目指す将来像として、「ゆたかなくらしを未来につなぐ ・にぎわいのある湘南の玄関口」としたこと。
3. 基本方針
   ①歩きやすい歩行空間の整備と周辺のまちへのつながりの強化 ②歩道と車道のバランスを整え、市民が居場所として過ごせる広場づくり ③藤沢らしさ、特色が感じられる魅力的な空間づくり （イラスト）

4. 地上部のコンセプトとしては ・ゆとりある歩行者空間 ・公共交通中心のひろば(一般車は規制する) ・デッキ部のコンセプトは、回遊性と町へのつながり ・藤沢ならではの開放感(民有地内でのデッキ整備)
5 図をひと目みると、デッキがビル内に移され、駅前の歩道空間が拡がり、その歩道の東と西側に緑とベンチのある滞留空間が作られ南口が大きく変わることです。1 階をバスタクシー中心にして一般車両を制限する交通広場としたことも大きな変更点だし、拡幅される南北通路の延長として小田急・江ノ電までの広い乗り換えデッキ 1 本にまとめたこともあります。
6 .しかし、まだまだ課題があることは認識されており、
   ①デッキのビル内設置は建て替えに合わせて作る合意がいること②一般車両はこのままでは南口広場に入れないので、う回路或いは通過道路かの合意がいるなどです。

**デッキ部の配置イメージ**

（次ページへ

（前ページから続き）

7. 他にも議員から課題注文が出されました。

③中央の広いデッキは今以上に景観上の問題が生じる

④真ん中の樹木が切られ交通広場にされたこと

⑤自転車・駐輪場の位置づけがない

⑥江ノ島道など藤沢らしさ・歴史風土を大切にする視点が感じられない

⑦湘南海岸・海のイメージがうすい

⑧イベントひろばの活用・アクティビティファーストの視点が欲しい

～などなど議員からは藤沢らしさへの配慮を中心に多くの疑問点が出されました。計画形成には時間をかけるということですが、まだ前途多難の出発でした。

（木下 薫）

## 浜辺から地球が見える！

今冬は西風が良く吹きました！ワカメも獲れています

先週葉山森戸海岸に上がったシュモクザメ（ハンマーヘッドシャーク）※写真

色々想うことあれど、やはりサメはこの　５０年で７割も減ったこと、フカヒレ目当てで乱獲が原因といわれています。

「何故死んだのだろう？」絶滅が危惧されるこの若いサメの姿、毎日浜を歩きながら、心配種が増えてます、、。

でも楽浜歩き、「桜貝を見つけよう！」もイイネ！

是非ご参加お待ちしてます

https://ecostorepapalagi.com/　　海岸散歩や観察会-2

※このメールは１００％自然エネルギー電力で送っています　　（写真・文責　武本　匡弘　環境活動家）

**放射能測定値（市民計測）**

（HORIBA Radi）単位（μSv/h）地上５０ｃｍ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2/9 | 晴 | 引地川親水公園 | 0.026 |
| 2/12 | 曇 | 藤沢市役所分庁舎前 | 0.068 |

## ECONET　INFORMATION

**▲３月１１日原発ゼロ・自然エネルギー１００世界会議**

https://20210311.genjiren.com/、

**▲「気候変動と日本」上映&温暖化入門セミナー**

あと４年　未来を守れるのは今

講師：太陽光発電所ネットワーク・田中 稔　氏（地球温暖化防止コミュニケーター）申込み必要です

Zoom　https://forms.gle/cyktzgidckangzrs8

３月１４日（日）13:00-14:40　参加費　無料

３月２１日（日）13:00-14:40

主催　npo 太陽光発電所ネットワーク

**▲パブコメを出しましょう**

- 藤沢駅南口駅前広場再整備基本計画（素案）3/18
- 藤沢市街路樹管理計画（素案）3/19 まで
- 藤沢市公共施設再整備基本方針（部分改定素案）3/26
- 藤沢市民会館再整備に向けたご意見を募集 3/31 まで

（詳しくは広報ふじさわをご覧ください）

**▲第９回　震災復興支援コンサート＆トークｉｎふじさわ**

原発事故から１０年　福島を忘れないように

４月１０日（土）　13:30-15:30　　中止

藤沢市民会館小ホール

チケット→前売り　当日ともに　５００円

主催　実行委員会　080-3018-8191（荒井）

**▲藤沢エコネットから**

◆前号 321 号の記事４ページ「第８回ふじさわ平和文化展」は中止となりました

◆会員募集　年会費・購読料→２０００円

ゆうちょ銀行　（9900）　店番　（029）

当座預金　0046501 ﾌｼﾞｻﾜｴｺﾈｯﾄ

◆事務局会議３月６日（土）１０：００～

Zoom により行います

《編集後記》福島原発事故から 10 年、当時、小学生を江の島に招き、津波で怖い海とは違う、楽しい磯遊びを一緒に体験した。その子たちも今は高校生。引越しで転校したり、放射能に悩まされたり、困難を乗り越え、たくましく成長しているだろうか。甲状腺ガン 252 人、県外への避難者は今も２万８千人以上いる。

気候危機に直面し、「低炭素」を「脱炭素都市ふじさわをめざして」にヘッダーを変えたので宜しく。（A）